

3版化学の新研究 正誤表 3刷用

【注】「電子（を）吸引（性・力）」→「**電子**（を）求引（性・力）」は、どちらの表記も存在しますが後者がより適切と判断して修正しました。数が多いので正誤表には入れていません。

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）
9	第1章 扉 ラボアジエ	4行目	熱素	燃素
210	8 詳説18	10行目	飽和硫酸ナトリウム	飽和硫酸アンモニウム
215	2	9行目・12行目	kJ/mol 〈4か所〉	kJ 〈4か所〉
247	[Science Box]	例題 〈後者〉 6行目	Ba^{138}	Ba^{137}
254	6 例題 〈前者〉	グラフの横軸の単位	K	K^{-1}
330	15 □1	3, 5, 13行目	NaCO_3 〈2か所〉	Na_2CO_3
368	[Science Box]	右段下から7, 9行目	2.50×10^{-5}	2.50×10^{-4}
383	[Science Box] トタンとブリキの腐食	右段＊の1行目	Su	Sn
451	7（訂正後8）	1行目	7 硫酸の性質	8 硫酸の性質
501	[Science Box]	〔4〕 1行目	日本量	日本酒
510	4 詳説12	13～15行目	ミョウバンの結晶を100℃付近まで熱すると、自身のもつ結晶水中に溶解するが、さらに200℃付近まで熱すると、すべての配位水を失って、	ミョウバンの結晶を約65℃に熱すると、 $\text{AlK}(\text{SO}_4)_2 \cdot 3\text{H}_2\text{O}$ に変化するが、さらに220℃付近まで熱すると、すべての水和水を失って、
588	8 詳説12	14行目	配座がすべて重なり形であり	配座の2か所が重なり形であり
589	[Science Box]	右段末尾	19種類	20種類
596	5 補足14	---	〈構成変更と修正〉	〈図版リスト3：に差し替え〉
644	7	1行目	カルボキシ基とヒドロキシ基とを	－COOHとアルコール性の－OHを
728	7	タイトル，反応式	カップリング	ジアゾカップリング
728	7	5行目	カップリング	ジアゾカップリング（カップリング）
777	6 ▶段落	2行目	（主に2位）	〈削除〉
811	[Science Box]	右段〔2〕 8～9行目	結局，GlyのN－Hと隣のProやHypのC＝Oとの間で水素結合が形成され，	結局，GlyのN－Hから数えて4番目のProやHypのC＝Oとの間で水素結合が形成され，かつ，Hypの側鎖の－OHの水素結合によって
814	8 □2 詳説19	9行目	キノン型	キノイド

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）
814	8 □2 詳説19	反応式	〈最後の構造式〉	〈Nの右上に⊕（○の中に+）を追加〉
830	4 詳説4	10行目	ADP + H ₂ P ₂ O ₇	ADP+H ₃ PO ₄
844	5	1～4行目	〈全文差し替え〉	〈図版リスト：8に差し替え〉
844	5 補足15	5～7行目	結晶部分が多い（非結晶部分は少ない）。このため、染料分子が内部へ拡散しにくく染色性が悪い。そこで、他成分との共重合によって分子間力を弱めると、非結晶部分が多くなり、染色性が向上する。また、アクリロニトリルに塩化ビニルを共重合させたものは、	結晶部分が多い。このため、染料分子が内部へ拡散しにくく染色性が悪い。そこで、他成分との共重合によって分子間力を弱めると、非結晶部分が多くなり、染色性が向上する。また、アクリロニトリルに塩化ビニルCH ₂ =CHCl を共重合させたモダクリル繊維は、
885	索引	4段目28行目	〈追加〉	ジアゾカップリング 728
893	索引	4段目30行目	〈追加〉	モダクリル繊維

<>/>で囲まれた部分は以下のような文字です

下線 <u>□ </u>

イタリック <i>□ </i>

太字 □

上付き [□]

下付き _□

